

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

新年あけましておめでとうございます。2023年を迎えて、皆様に改めて感謝の思いを表したいと願うのです。

「主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように」という言葉を、使徒パウロは彼の書簡の中で、各所に散りばめています。彼の同胞を愛してやまない心情が切々と伝わってくる思いがします。最近、15年ぶりに集ったある教会の礼拝で、懐かしい顔を発見し、思わず駆け寄っていきました。記憶力減退症候群の私は、日系人の彼女の名前が全く浮かんで

きません。ところが80歳半ばだという彼女が柔和な笑顔で、「REIKO!」と呼んでくださったのです。何の関わりもなかった私の名前を覚えていてくださったのです。キリストにある兄弟姉妹の温かさに触れ、ほっと安らぐ思いに満たされたひと時でした。まだお会いしたことがない時報の読者の兄弟姉妹たちの霊がキリストの愛によって満たされますようにお祈りいたします。主に栄光を！新しい年に祝福を！



神様の御業の謎解きを楽しむ

福音交友会宣教団牧師・阪南バイブルチャペル
黒田 朔師

私たち夫婦は今大阪の南、関空の近くで4年目を迎えた阪南バイブルチャペルに住み、開拓伝道のお手伝いをしています。70年前に通った母校、鳥取中学校がある町です。40年前、「まさか私たちがハワイへ…」と驚きながら迎えられたマキキ聖城教会を引退、10年程の日本での働きを終え、ハワイへ戻ろうと荷物を送ってから決まった「まさかの郷里伝道」です。共に80歳を越えた私たち夫婦の楽しみは今までを振り返り、「あの出来事は今日のこの時のためだったのか」、「まさかねえ」と驚き、「神様のみ業の謎解き」を楽しませて頂くことです。最近、こんな出来事がありました。「肺癌・ステージ4、しておきたいことがあれば今の内に」と言われ、「日本のおばあちゃんに会いたい」というお孫さんの願いをかなえようとWさんファミリーがテキサスから岸和田のおばあちゃんを訪ねて来ました。Wさんは夢のような幸せな2週間の日本滞在を楽しみました。私は彼らが帰国する前にもう一度お会いしようと、おばあちゃん宅にWさんを訪ねた後、阪南バイブルチャペルに帰りました。そこへ、移動書店「ゴスペルボックス」のTさん来ていただきました。話の中でTさんがテキサスに留学していたことがあると分かり、「テキサスならカレッジステーションに私の知り合いのWさんが来て居ますよ」「エエッ!私はそのWさんの家庭集会でクリスチャンとなったのです」驚きました!早速、今しがた別れて来たWさんに電話をすると「やあ、お久しぶりね、T君!」

確か1992年、私たちマキキの伝道チームがWさん宅を訪問、初めて開いた家庭集会で「これからこの集会を通して多くの学生が救われますように」と祈ったのです。神様

はそのWさん宅の学生集会で救われたTさんをここ、阪南市に送ってくださり、30年前のハワイからの伝道チームを通して蒔かれた種が実を結んでいることを知らせてくださり、「あの時、テキサス迄行って良かった」と感謝しました。しかし、しばらくして、私はTさんの救いのもとになった一粒の種はもつとさかのぼることに気づかされました。Wさんのお父さんは結核で闘病中クリスチャンとなり、40代で亡くなったのですが、神様はそのお父さんを用いて当時の高校生だった娘のWさんを信仰に導かれたのです。1970年8月のことでした。

聖書のことばを思い出します。「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」(ヨハネ12:24)「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」(1コリント3:6,7)

若い時には、様々な現実を目の前にして、聖書の約束を信じきれなくて悩み、戦いました。しかし、今は、歳を重ねて、この度、驚かされたWさんとTさんのつながりのように目の前の現実の不思議さを通して聖書の約束の確かさに驚き、感動することが増え、「神様のみ業の謎解き」を通して励まされ、従うことの大切さを学ばされています。イエス様の弟子たちも自分たちの歩みを振り返り、イエスとそのお言葉に従って与えられた恵みを数え上げ、励まされ、厳しい迫害の中をも信仰を全うすることができると証しています。

「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あな



たがたをキリストにあって永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」(1ペテロ5:10)これはイエスに従いつつ困難、試練、失敗を通ったペテロの証と告白であり、ペテロの「神様のみ業の謎解き」です。中でもペテロが最後に3度イエスを知らないと呼んでしまったあの重大失敗を赦される体験を通して、「完全にし」(新改訳2017版脚注参照)て頂いた喜びの証です。この「完全にし」はかつて漁師であった頃、ペテロ自身が破れて使い物にならなくなった網を次の漁のために一針、一針「繕った」(マタイ4:21)ように、神様はペテロの破れを繕って下さり、私が今ここに居るのはそのお陰ですと謎解きをしているのです。

謎解きは決して後ろ向きで終わりません。「数えて見よ、主の恵み」と賛美しながら、神さまからのチャレンジに信仰をもってお応えする力です。その時、私たちもイエス様の弟子の一人としてパウロと共に主を喜び、証しすることができるでしょう。「しかし、このことは、『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった』と書いてあるとおりでした。」(1コリント2:9)

モンゴル草原に広がる主の御業

前トーチトリニティー神学大学宣教学教授
「モンゴルキッズの家」支援会代表 / ローザンヌ運動GLTリーダー

高見澤 栄子



1月のモンゴルは、気温が零下40度まで下がります。帰る家がない子供達は、温水パイプの通るマンホールの中で生き延びるので、マンホール・チルドレンと呼ばれます。1991年のソビエト連邦の崩壊に伴って、衛星国モンゴルも経済が混乱し、失業率は6割を超え、多くがアルコールに走り、被害は家庭と子供達に及びました。虐待の家を出た子や、出稼ぎに街に出された子ども達が、首都ウランバートルのマンホールに4500人もいました。1998年、NHKはその中の3人、ボルド、ダシャ、オユナを追いかけてインタビューを作りました。親のない彼らは、ゴミ箱から漁ったものや悪いことをして手に入れた物で生き延びるしかありません。私は23年前にその番組を見ました。非常に心が痛んだのですが、神学校を卒業したばかりで何もできず、「いつかこの子供達を助けることができますように」と祈るだけでした。

「10年後のマンホールチルドレン」という追跡番組が作られ、それがインターネットに載ったのは制作より9年後の2017年でした。私は韓国でそれを見ました。あの3人は20代の若者でした。幼い時のあどけなさは消え、状況は悲惨で、アルコール依存、希死念慮、文盲なので3Kの仕事しながら、電気も水も無い地下室で生きていました。そんな映像を見て、今までの祈りは単なるリップサービスのように感じ、「この最も小さい者たちのひとりしなかったのは、わたししなかったのです。」(マタイ25:45)というみ言葉が心に突き刺さってきました。何かをしなくては、と思うものの、この3人にもどう会えるでしょう。神学校にいたモンゴル人学生に相談すると、「僕の教会で最近救われたアルコール依存者が、俺はTVに出た、と言っていましたよ」というのです！名前を聞くと、ボルド！あの3人の一人でした！神様が後押しをしてくれていると感じて、この

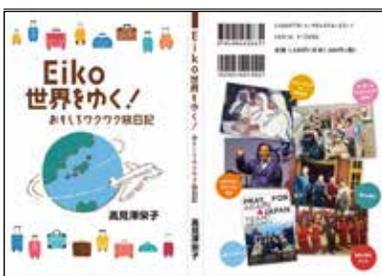
学生のモンゴルの教会と一緒に子供達の働きを始めることになりました。全く経験がないため、手探りで0からのスタートでした。

聖霊の追い風を受けたように、驚くようなスピードで事が進みました。3月に祈り初めて、モンゴルチームは施設の確保や奉仕者の訓練、子供の選抜などに当たり、支援会は祈りのサポーターを募り始めました。見事なホームページを、無料で3つの言語で作ってくれる人、日本の事務局の奉仕者が与えられ、かわいいロゴもでき、親善大使や協力アーティストも加わり、いろんな方の助けを得て驚くようなスピードで展開しました。その年の9月には、小さな家を借りて6人の子供達を預かり、「モンゴルキッズの家」がスタートしたのです。その後、多くのマンホールの子供達が人身売買の犠牲となっていると知り、「1人でも多く、1日でも早く」、と祈ると、競売物件の建物が安価で与えられました。日当たりの良い3階建ての建物は子供の活動に、9の個室はシングルマザーと子供達に最適でした。1年目に集まった支援金で、ちょうど入手することができたのです。開所して半年のことでした。現在は24人の子供達とシングルマザー達を、10人のスタッフを雇用してケアしています。日本、韓国、USにいるメンバーは、皆ボランティアで奉仕し、このために祈ってくれるドリームトゥゲザーのメンバーは2800名となりました。

NHKが、神様に出会った後のボルドとダシャの新しい人生を追跡番組として作成しました。これは大きな反響を呼んで、文化庁の芸術祭でグランプリをはじめ多くを受賞しました。社会から爪弾きにされたボルドとダシャが、友情を大切に、新しい人生を目指す生き方は、多くの視聴者の心を打ち、受賞に至ったと思います。

今年モンゴルキッズは4周年を迎えました。箴言31プロジェクトとしてシングルマザーの職業訓練、ホープ&フューチャープロジェクトとして、ユースの働きを展開しています。近い将来にはソングノカイルカンという路上生活の子どもの多くいる地区に、新しいシェルターを作る計画も立てています。

動物小屋に生まれてくださったイエス・キリストは、苦しい状況に生まれた子どもたちを理解し愛しておられます。彼ら一人一人が神様に与えられている命と賜物を輝かして、神様の栄光を表す人生を生きることは、御心です。この神様のビジョンを受けて、モンゴルキッズの家は、小さきイエス様に仕えて新年も進みたいと願います。



高見澤栄子著書「Eiko世界をゆく！おもしろワクワク旅日記」が出版されました。収益金の一部はモンゴルの働きのために用いられます。問合せ: minakoF@jems.org まで



モンゴルキッズの家のウェブサイト <https://www.mongoliakidshome.com/>



子供たちの未来は希望にみちている

ジェイン・フォング JEMS宣教師

日本では、不幸なことに「いじめ」が学校生活の一部になっているようです。いじめを現代語として訳すると、ある生徒が他の生徒に身体的あるいは心理的な苦痛を与え、結果的にその生徒に精神的に肉体的に苦しみを引き起こしてしまう状況をいいます。これは日本において大きな問題となっています。なぜなら生徒たちの50%が何らかの形で加害者か被害者のいずれかに関わっているからです。一体生徒たちが安心できる場所はどこにあるのでしょうか。

東京上野にある木村基一学園長の恵友学園は、フリースクールです。恵友は、通常の日本の公立学校に適應できない生徒のための学校です。だれもがグループの一員として責任ある行動をすることを期待されています。恵友には、いじめを経験したり、社会の中で普通に他人と交わり共に生活していくために必要なことが苦手な生徒たちが通ってきています。生徒たちはどうにかして自立していくことを学びながら、生徒たち一人一人が守られていることを実感できるように指導しています。日本での宣教活動は人間関係を築いていくことが大切です。生徒たちと共に活動していくことによって明確な答えが出てきています。

私は1996年に修士課程を終了し、言語治療専門家として、教育分野で働いてきました。私の宣教活動は、2014年に始まりました。私の家族(夫のトッド、息子のジェレ

ミー、娘のあゆみ)と共に日本に移り、私はクリスチャン・アカデミーで働き始めました。2021年に、クリスチャン・アカデミーの職を退き、神様の呼びかけに従って、英語と日本語を話す特別な配慮が必要な学生達のために個人的に働き始めました。

現在の私の宣教の構想は、地域社会に住むコミュニケーションに問題がある学生たちや家族を支援していくことです。そしてより効果的なコミュニケーション力を身につけ彼らが自分の意見を述べる事ができるように指導し励ましていくことです。それゆえに私は恵友学園で毎週奉仕しています。私の夫のトッドも毎月礼拝でメッセージを伝える役を担っています。

私が恵友学園で奉仕をし始めて以来、学生たちの心が次第に開かれていくのを感じます。生徒たちとゲームなどをして、生徒たち同士が互いに交流するように仕向けています。話し合いを促すような質問をします。しかし最も大切なことは、私が聞き役になることです。

初めて恵友で奉仕を始めた時、生徒たちは口を開かないし、互いに触れ合うこともない、といわれていました。だから私は生徒たちがどのように反応するのかわかりませんでした。しかし最初の授業から、驚くことが起きました。礼拝の間一言も話さなかった一人の少年が、私が尋ねた質問に答えたのでした。さらに彼自身から質問をしてきたのです。他の教師たちはびっくりしていました。一人の親は、私が生徒たちとゲームをしていた時、生徒たちが一緒になって笑っているのを見て、こんなことは初めてだと言っていました。これらの生徒たちが成長し、変わっていくのを見るのができるのは素晴らしいことです。生徒たちは互いにより配慮しあい、自分をもっと押し出して共に

生きていくことを学びつつあります。

恵友での私の役割は、私が特殊教育の経験があるために他の奉仕者たちとは少し違っていました。学園長と共に目標を設定し、恵友に入りたいという目標をもっている若い生徒たちを支えるカリキュラムを作ります。私は恵友の同僚たちと楽しんで協力していきました。また一緒に成果を吟味していきます。どうか学校で学んでいる生徒たちと家族のためにお祈りください。そしておのおのの生徒たちと働く職員たちが生徒たちと良い関係を築くことができるようにお祈りください。11月に、私は日本でチャーチ・プラントのための会議に出席し、学業児を持つ宣教師家族に助言することができました。他の人たちと接することができる素晴らしい時でした。子供の成長に悩み心配している家族を励ますと同時に支援をするというものはかけがえのないことです。これからもこのように奉仕していく機会がさらに与えられますようにお祈りください。

「主は言われる、わたしがあなたがたに対してにしている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなた方に将来を与え、希望を与えようとするものである。」(エレミヤ書29章11節) この聖句は、トッドと私が結婚して、私達の人生のすべての過渡期を乗り越えてきた時、ずっと共に携えてきたみ言葉です。私がこの新しい宣教を始め、恵友で働いているときにいつもこの言葉が頭に浮かんできます。恵友でも宣教においても生徒たちのために神様がどんな計画を立てておられかわかりません。しかし神様において、私たちは未来があり希望があることを私は知っております。なんという祝福でしょう。



JEMS 日本語部

JEMS日本語部コーディネーター 藤本 三奈子

新年明けましておめでとうございます。今年もJEMS日本語部の働きのためにお祈りとサポートをよろしくお願い致します。

第74回JEMSマウントハーモン修養会についてお知らせ

マウントハーモンカンファレンスセンター: 37 Conference Dr. Felton, CA 95018

2023年7月2日(日)~7月8日(土)

朝の聖書講解講師: 黒田朔牧師 福音交友会宣教団牧師・阪南バイブルチャペル

夜の集会講師: 修養会参加牧師

申込み開始: 1月下旬から2月上旬を予定 お問い合わせは minakoF@JEMS.org まで

